大政翼贊岡山縣技術奉公會創立

三宅發造

序

本筆記は昭和十六年二月十一日、岡山市内山下尋常高等小學校講堂に於て開催したる大政翼贊岡山縣技術奉公會創立發會式に於ける狀況の要旨を摘錄したるものにして、講演内容等に於ては多少の誤謬、脫漏等なきを保し難し。乞ふ御諒恕あられんことを。

目次

一、大政翼贊岡山縣技術奉公運動實施要綱
二、岡山縣技術奉公會會則
三、宣言
四、名譽會長挨拶
五、大政翼贊岡山縣技術奉公會創立發會式狀況
六、特別講演　厚生省勅任技師　醫學博士　古屋芳雄氏
綜合技術の發揮ト人口政策

大政翼贊岡山縣技術奉公運動實施要綱

趣意書

茲に紀元二千六百一年聖戰第五年を迎へて我が國の世界的使命愈々重大を加へると共に國際情勢は益々緊迫して今や我國は未曾有の難局に直面した、我等國民は總力を擧げて速かに高度國防國家の體制を確立し此の國難を克服して大東亞共榮圏建設の目的を達成し以て世界新秩序を樹立せねばならぬ、即ち國民體力の向上諸物資の增產自給自足に努め人的並に物的資源を確保して國防强化に邁進しなければならないのである、而してこの資源の確保は科學の振興と科學的技術の力に俟つべきは言を俟たざる處之れを思ふ時この科學及び科學的技術を以てその職能とする吾人の國

家的使命は倍々重且大なるを今更の如く痛感せざるを得ない。

吾人は宜しく心を新たにして自ら省みて此の重責を確認し技術報國の信念と氣魄とを以て益々その志氣を振作し協力一致國策に向つて各部門の總力を集注し粉骨碎身以て職域奉公の實を擧ぐるに遺憾なきを期せねばならぬ、又科學の振興技術の發達は獨り專門家の努力によつてのみ達せらるゝものではない、爲政者の關心は言ふ迄もないが特に國民一般の科學技術に對する認識を深め其の科學的精神と日常生活の科學的水準とを高めなくてはならぬ、こゝにも亦吾人の一大任務が存するのである。

今や自我功利の思想を排し國家奉仕を第一義とする和衷戮力國民奮起の秋吾人技術者の一致團結して起つ可き秋である、吾人が敢て岡山縣技術者同僚諸君に愬へ本運動を提唱せんとする所以のもの正に茲に存するのである。

主要目標並實踐項目

本運動の目的達成の爲左記主要目標に向つて邁進し其の實踐項目の徹底を期せんとす。

主要目標

一、技術精神の振作
一、技術の向上活用
一、技術眞價の宣傳

實踐項目

技術精神の振作

一、時局に對應する技術の國家的使命を正しく認識し以て旺盛なる氣魄を昂揚す。
一、技術的功績を顯彰し技術者の志氣を振作す。
一、技術者が常に活氣を以て其の職務に邁進し得るやう行政事務の刷新を促す。

技術の向上活用

一、時局に即應せる技術の研究向上を圖る。
一、技術各部の連絡を密にし技術の綜合活用能率增進を圖る。
一、卓越せる技術の顯揚活用を圖る。

技術眞價の宣傳

一、技術の眞價を部外に認識せしめ技術の發達に對し協力を促す。

一、技術の社會化と縣民生活の科學化を計る。

實踐機關

本運動の實踐機關として岡山縣技術職員全員を以て岡山縣技術奉公會を組織し急速なる運動を展開せんとす。

岡山縣技術奉公會會則

第一條　本會ハ岡山縣技術奉公會ト稱シ事務所ヲ縣廳內ニ置キ縣技術職員及ビ會長ノ推薦ニ依ルモノヲ以テ組織ス

第二條　本會ハ會員相互ノ連絡志氣ノ振作技術ノ向上活用ヲ圖リ以テ技術報國ヲ期スルヲ目的トシ左ノ事項ヲ行フ

一、時局ニ卽應セル技術ノ調査研究

二、技術ノ統合聯繫ニ依ル能率增進

三、技術眞價ノ宣傳

四、縣民日常生活ノ科學的水準ノ昂揚

五、優秀技術ノ顯彰

六、印刷物の刊行

七、其ノ他本會目的達成ニ必要ナル事項

第三條　本會ニ左ノ役員ヲ置ク

名譽會長	一名
會長	一名
副會長	一名
顧問	若干名
常任理事	若干名
理事	若干名
委員	若干名

第四條　役員ハ左ノ方法ニヨリ選任シ名譽會長、顧問ヲ除ク役員ノ任期ハ一ケ年トス但シ會長ニ於テ役員ノ指名ヲナスコトヲ得

名譽會長ハ岡山縣知事ヲ推戴ス

會長、副會長及常任理事ハ理事ノ互選ニヨル顧問ハ會長ノ推薦ニヨル

理事ハ技術部課長ヲ充ツルノ他各課各廨所ノ委員ヨリ一

名宛ヲ互選ス

委員ハ各課各廨所ノ會員ヨリ三名宛ヲ互選ス

會長必要ト認メタルトキハ各課各廨所ヨリ選出スベキ理事及委員ノ數ヲ增減スルコトアルベシ

第五條　會長ハ會務ヲ總括シ本會ヲ代表ス

副會長ハ會長ヲ補佐シ會長事故アルトキハ其ノ職務ヲ代理ス

理事ハ會長ノ指揮ヲ受ケ會務ヲ分掌シ常任理事ハ總務、會計、企劃、調査、研究等ニ關スル會務ヲ處理ス

委員ハ會長ノ指揮ヲ受ケ所屬課所屬廨所ノ會務ヲ分掌ス

第六條　本會ノ會議ハ理事會、委員會トシ會長之ヲ招集ス

理事會ハ重要會務並ニ會計經理ノ議決ヲナス

委員會ハ重要會務ノ協議ヲナス

前項ノ外必要ニ應ジ全會員ノ總會、特ニ密接ナル關係アル會員ノ部會ヲ開催スルコトアルベシ

第七條　本會ノ經費ハ寄附金其ノ他ノ收入ヲ以テ之ニ當テ

一般會計年度ヲ以テ處理ス

前項會計報告ハ文書ヲ以テナスコトヲ得

附　則

本會會則ハ昭和十六年二月十一日ヨリ實施ス

宣　言

今ヤ國家非常ノ秋ニ當リ、高度國防國家ノ建設ハ焦眉ノ急務タリ、而シテ其ノ資源ヲ確保シテ、國防ノ根基ヲ鞏固ニスルハ偏ニ科學的技術ノ總力ニ俟タザル可ラズ、吾人技術者ハ其ノ使命ノ益々重大ナルニ鑑ミ自我功利ノ思想ヲ排シ、國家奉仕ヲ第一義トシテ、和衷戮力ソノ全能力ヲ發揮シ、以テ職域奉公ニ邁進センコトヲ期ス。

右宣言ス。

名譽會長挨拶

行政ニ於ケル技術ノ重要性

近代ノ國家ガ官職ヲ司ル者ニ要求シテヲル素質ハ先ヅ法制經濟ノ知識デアツタ、法治國家ノ運用ニ缺グベカラザル資格要件トシテ、法制的知識ガ要求サレ、近代的法治國ノ體制ヲ整備スル上ニ於テ必要トサレタ內面的要求デアツ

タ、然シ法制的知識ノ必要ハ國家ガ官職ニ要求スル廣イ意味ノ科學的又ハ技術的要素ノ一ツニ過ギナイ、法制的知識モトヨリ必要ニハ相違ナイガ、近代行政ノ機能ヲ十分ニ發揮スル爲ニハ之ト竝ンデ技術技能ノ重要性ヲ認メネバナラヌ、現代國家ハ行政ノ上ニ多數多樣ナ科學ト技術トヲ取入レル必要ニ迫ラレテ居ルノデアル、固ヨリ行政事務ソレ自體ノ上ニ科學的技術的方法ヲ採用シテ能率增進ヲ圖ラネバナラヌ、科學的技術的判斷ノ素養ト訓練トガ與ヘラレネバナラヌガ、科學及技術ガ科學及技術ソレ自體トシテ行政ノ上ニ大キナ基礎ヲナシ或ハ大キナ內容ヲナスニ至ツタノデアル、ソレニモ拘ラズ行政ノ上ニ於テ斯ウシタ科學及技術ノ重要性ガ等閑ニ附セラレテキルコトハナイカ、今日迄サウシタ傾向ハナカツタカ、事務方面ノ行政職ニ在ル者ハ科學及技術ニ對スル關心ニ乏シク其ノ智識ガ少ナイ爲ニ自然尊重ノ念ヲ缺ク、技術方面ノ行政職ニ在ル者ハソノ技術技能ノ殼ノ中ニ蹈躇シテ廣イ行政ノ世界ニ眼ヲ放ツコトニ缺クル憾ミガアル、今日迄ノ行政發達ノ跡ヲ見ルト、カウシタ感ガツクヅクスルノデアル、科學及技術ニ對スル關心ノ缺除ハ、啻ニ事務方面ノ行政職ニ在ル者許リデナク、實ハ廣ク日本人全體ニ亘ツテノ缺點デアル、今日橋田文部大臣ガ「科學スル心」ノ涵養ヲシキリニ唱導セラレルノハ時弊ノ急所ヲツカレタモノト思フ、科學トイフコトヲモツト徹底的ニ日本人ガ理解シ又ソレニ伴ツテ科學トイフモノガ本當ノ姿ニ於テ日本デ發展スル樣ニスルコトガ急務トサレテヲルノデアル、ソレ故ニ、近衞內閣ノ基本國策要綱ノ中ニ「科學ノ劃期的振興」トイフ一項目ガ擧ゲラレタノハ宜ニ結構デアル。國本ノ培養、國運ノ發展ハ數學ノ刷新ト竝ンデ科學ノ振興ニ期待シナケレバナラヌ、政治ト科學ガ緊密ニ結ビ付テ如何ニ國運ヲ發展サセタカ、之レヲ獨逸ニ見ルナチス政權成立以前年產三十萬瓲ニ過ギナカツタ獨逸ノ人造石油事業ヲ一躍年產三百六十萬瓲ニ擴充サセタノハ、ヒトラー總統デアツタ、ヒトラー總統ハ我ガ訪獨經濟使節團ニ對シテイキナリ支那ノタングステンノ話ヲシタサウデアツタ、科學ト政治行政、科學ト外交、科學ト產業、ソノ關

聯ノ緊密サヲツクヅク思フ、ソノ科學ニ依ツテ究明サレタ法則ナリ現法ナリヲ應用シテ人類生活ノ發達向上進歩ヲ圖ル部門ガ技術デアルト思フ、從ツテ技術ガ行政ノ上ニ大キナ役割ヲ持ツモノデアル。

然ラバ現代ノ行政ニ技術ガ大キナ役割ヲ演ズル上ニ於テ如何ナル事ガ心掛ケラレネバナラヌカ。

第一ニ技術相互ノ綜合デアル。

今日ノ行政ノ大キナ缺陷ハ綜合性ノ缺除デアル、昨年十月地方長官會議カラ歸ツテ縣廳員ヲ集メテ訓示シタ際ニ、私ハ「行政運營ノ上ニ於テ左右連絡セズ、上下貫徹セズ、前後連接セザルハ從來ノ弊デアル、ソノ故ニ行政ノ綜合行ハレ難ク徒ニ指令通達ヲ受クル者ヲシテ奔命ニ疲ラシメテヲル。」ト述ベタガ、技術ノ方面ニ於テ果シテ此ノ憾ナキヤ否ヤ、今興亞院ノ技術部長ヲシテヲル宮本武之輔サンハ次ノ樣ニ述懷サレテヲル。曰ク

「私ハ昭和六年以來內務ノ土木局デ全國府縣ノ災害土木工事ニ關スル事務ヲ取扱ツテ來タガ、洪水デ堤防ガ缺潰シタトカ、道路ガ破壞シタトカ、橋梁ガ流失シタトカノ事例ニ就テ仔細ニ其ノ原因ヲ探求シテ見ルト、道路技術者ガ河川ノコトヲ念頭ニ置カナカツタトカ、河川技術者ガ橋梁ノコトヲ考慮ニ入レナカツタトカ言フタヤウニ、夫々ノ專門技術ガ橫ノ方向ニハ何等ノ連絡モ統制モナク適用サレルコトガ、災害ノ最大原因ノ一ツデアルコトガ看取サレタ。」

果シテ宮本氏ノ言フガ如ク技術者ノ左右連絡セザルコトガ大キナ原因ヲナシテ災害ヲ發生セシメテヲルトセバ技術者タル者、ヨホド反省シナケレバナラナイ。

專門技術ニ付テハ事務方面ノ役人ハサツパリ分ラヌ、技術者ヲ信賴シテ其ノ技術ニオ任セスルヨリ外ナイ。然ラバ技術者ハ自己ノ技術ヲ十分發揮スルト共ニ他ノ技術ヲ十分ニ尊重シテ之ヲ綜合統一スルコトガ必要デアル、文化ノ進展ニ伴フテアラユル方面ニ分科ガ行ハレル、ソノ結果綜合ヲ失ツタノガ今日ノ姿デアル。

米國ニューヨークノロツクフエラー醫學研究所ノ、アレキシス・カレル博士ガ述ベラレテヲルコトデアルガ、宮本君

ノ述懷ト合セ考ヘルトキ、我々ハ大キナ示唆ヲ得ルノデアル。カレル博士曰ク

「人間ガ人間ヲ知ラナイノハ調査ガ困難ダツタリ、調査ガ不確實ナタメデハナク、其ノ報告ガ余リニ多スギルノト混亂シテヲルノトニヨル、又科學ガ人間ノ肉體ト精神トヲ研究スル爲ニ人間ヲコマゴマニバラバラニ無數ノ斷片ニ分解シテ了ツタ爲デアル。」

「人間ノ科學ハ總テノ他ノ科學ヲ應用シナケレバナラナイ、ソコデ種々ナ專門家ガ必要トナル、專門家ハ或ハ肉體ノ或ハ精神ノ一部分ノ研究ヤ、ソレ等ト外界トノ關係ノ研究ニ沒頭スル、斯クシテ解剖學者、生理學者、化學者、心理學者、醫者、衞生學者、教育家、宗教家、社會學者、政治家、經濟學者等々ガ必要トナリ、ソノヒトツビトツノ專門ガ更ニマタ益々小サナ部門ノ專門ニ分割サレル。」

「ソノオ蔭デ科學ガ發達シタノデアル、專門家ハ必要ダ、科學ハ彼等ナシニハ進步シナイ、然シ彼等ノ研究ノ結果ヲ人間ニ應用スル前ニ彼等ノ分析カラ得タトコロノバラバラノ材料ヲ綜合統一スルコトガ必要ナノデアル。」

私ハカレル博士ノ此ノ言葉ヲ技術ノ上ニ於テ反省シテ見タイ、技術ヲ人間ノ上ニ、自然ノ上ニ適用スルニ當ツテハ夫々專門ノ技術ガ綜合統一サレナケレバナラナイ、分析、分科固ヨリ止ムヲ得ザル趨勢デアリ、發達ノ要件ニ相違アルマイガ、綜合ヲ忘レラレタ適用ハ極メテ危險デアル、人間ノ科學ニ付テ綜合科學ニ必要ヲ力說シテヲルノト同ジ根據同ジ理由ノ下ニ綜合技術ヲ强調セネバナラナイ、私ハコレコソ眞實ノ「技術ノ活用」デアルト思フ、今後ハ益々專門ノ技術ガ尊重サレネバナラヌ、專門ノ技術者ノ技術ニ期待シナケレバナラヌ。從ツテ今後ノ技術者ハ其ノ所謂名人氣質トカ職人氣質ノ專門家デハ困ル、ソノ專門的知識ニ拘束サレ大局ヲ逸シ本末ヲ誤ツテハ由々シキ大事ヲ惹起スル、各自ノ專門ノ技術ヲ十分發揮サレルト共ニ廣ク左右相連絡シ綜合サレネバナラヌ。

第二ニ技術ト技術外ノモノトノ聯繫綜合デアル。

第一ハ技術相互間ノ連絡綜合デアツタガ、第二ハ技術ト

技術外ノモノトノ聯繫綜合デアル、殊ニ時局ニ卽應シテ經濟トノ關係ハ極メテ緊密ナ聯繫ヲ要スル、科學ハ普遍妥當性ヲ持ツガ技術ハ普遍妥當性ノ代リニ適時性乃至適地性トイハウカ、時ト所トニ適應スル性質ヲ持ツ、殊ニ今日ノ如ク長期戰ヲ戰ツテ無限ノ國力消耗ヲナシツ、アル際ニ於テハ、之レヲ補塡スルト共ニ無限ノ國力培養ヲ以テ應ゼネバナラナイ、現代技術ハ之ニ卽應シナケレバナラナイ、從ツテ技術者ガ技術ノ領域ニダケ蹈躇シテ他ノ廣イ社會カラ隔絕シテハナラナイ、他ノ廣イ社會トノ間ニ融通性ト綜合性トガナケレバナラヌ、今日ノ緊迫セル國際情勢ニ依レバ技術者ガ如何ニ其ノ技術ヲ生カシ能力ヲ發揮サセヤウトシテモ非常ナ制約ガアル、卽チ物資ノ關係資金ノ關係デアル、今迄我ガ國ヘ米國ソノ他カラ石油、棉花、羊毛、皮革、屑鐵、銅、タングステン等々幾多ノモノヲ輸入シテキタ、支那事變ヲ戰フ上ニ於テモ此等ノ物資ニ依ツタ、然ルニ最近ノ國際情勢ハ之ヲ不可能ナラシメル、只頼ミノ綱ハ日滿支經濟ブロツク——東亞共榮圈ガ確立スレバソノブロツク內ノ資源ト我ガ國ノ技術ニ依ル物資ノ自給トダケデアル、カクテ發明技術ノ外ニソノ發明ヲ事業化シ工業化シテ良品ヲ廉價ニ多量ニ生產スル生產技術ガ必要トサレル所以デアル、此ニ於テカ技術ト經濟トノ渾然タル融合ガ切ニ要請セラレルノデアル、技術ガ技術外ノモノトノ聯繫綜合ガ必要ニナルノデアル、今日今後ノ時局ニ於テハ技術ガ政治經濟ニ依テ物資、資金、其ノ他多クノ制約ヲ受ケルノデアルカラ技術人ソノ制約ノ下ニ機能ヲ發揮シナケレバナラナイ、然シ私ハ技術ガ此ノ如キ狀態ヲ甘受シテ消極的受働的デアツテハナラヌト思フ、反ツテ積極的ニ能働的ニ此ノ如キ狀態ヲ克服シテ技術ノ機能ヲ發揮スル樣ニ努ムベキデアル、制約ガ重レバ重ル程技術ハ之ヲ克服シテ行クコトヲ考ヘネバナラヌ、技術ノ生命的發展トイフノハ正ニ此ノコトダト思フ、今迄ハ一定ノ質ノ一定量ノ材料デ一定量ノ仕事ガ出來タ、今日以後ニ於テハソレヨリ少イ而モソレヨリ質ノ惡イ材料デ少クトモ從來ダケノ質ト量ノ仕事ヲナサネバナラヌ、ソレニハ熱ト工夫ト努力トニ俟タネバナラヌガ、技術

ガソノ技術ノ範圍內ニ跼蹐セズ技術外ノ他ノモノトノ聯繫綜合トイフコトニ依テ又技術ノ適時性適地性ヲ考慮ノ上ニオイテ技術ノ生命的發展ヲ圖ルコトト思フ。

大政翼贊技術奉公運動ハ卽チ以上ノ二點、技術相互間ノ綜合、技術ト技術外ノモノトノ聯繫綜合ニ依テ技術ニ依ル臣道實踐、職域奉公ノ實ヲ擧ゲントスルモノデアル、而モ之ニヨツテ技術者自身ガ其ノ技術ニ依ツテソノ實効ヲ擧グルノミナラズ、併セテ之レニ依ツテ技術ノ重要性、科學及技術ニ對スル理解ヲ江湖ニ廣メルノデアル、此ノ意味ニ於テ、今日紀元節ノ表彰式ニ當リ技術者ノ內カラ工業試驗所ノ太田技師ノ藺草パルプヲ發明シテ產業ニ寄與シタ功績ヲ表彰シタ、技術奉公運動發足ニ當ツテ私ノ技術ニ對スル心持ノ發露デアル。

技術相互間ノ綜合、技術ト技術外ノモノトノ聯繫綜合トイフコトノ實効ヲ擧ゲントスレバ其ノ根本ハ「自我功利ノ思想ヲ排シ國家奉仕ヲ第一義トスル和衷戮力」デアル、此ノ指導精神ノ下ニ技術ガ十分ノ機能ヲ發揮シ、生產力ノ擴充、生產ノ增進、人的、物的兩方面ニ於ケル國力ノ培養ニ貢獻スル所アラネバナラヌ、ソレガ技術者ノ技術ニ依ル大政翼贊ノ臣道實踐デアル、大政翼贊技術奉公運動ハ卽チ此ノ臣道實踐ヲ促進スルノ運動デアル、カクテ岡山縣廳員タル技術者諸君ガ大同團結ノ下ニ此ノ臣道實踐ニ力ヲ致サレルトキ、岡山縣ニ於ケル縣廳關係外ノ技術者ヲモ憤起セシメ更ニ日本全國官民各方面ノ技術者ニ大ナル刺戟ヲ與ヘルデアラウ、技術ノ生命的發展ハ此ノ如クシテ興亞ノ聖業ニ大ナル寄與ヲ爲スモノアリト確信シテ疑ハヌ、私ハ諸君ノ今後ノ御奮鬪ニ大ナル期待ヲカケルモノデアル。

大政翼贊岡山縣技術奉公會創立發會式狀況

開會ノ辭（村山衞生課長）

準備委員ノ一人トシテ、本日ノ技術奉公會ノ結成ニ至ルマデノ經過ノ大要ニツイテ申述べ開會ノ御挨拶ニ代ヘタイト存ジマス、昨年秋ノ頃デシタガ、知事ガ技術課長ヲ集メマシテ、時局下ニ於ケル技術者ノ態度ニツイテ懇談會ヲ開カレマシタ、ソノ際我々技術者ハ夫々ノ立場ニ於テ、今

後ノ層時局ニ卽應シ、職責ヲ全フスベク努力シヤウト云フ事ニナツタガ、勿論我々ハ技術者トシテ從來トイヘドモ、技術振興ノ爲メ充分努力シテ來タ心算デアルガ、長官ノオ話ヲ機會トシテ何カ具體的ナ奉公運動ヲ起シ、一層技術ノ振興ヲ圖ラウト申合セ、其ノ後數回集ツテ相談ヲ致シタノデアリマス、コノ重大ナ時局下ニ於キマシテハ元ヨリ人的資源、物的資源ノ確保ヲ圖リ、以テ高度國防國家建設ニ邁進セネバナラヌノデアリマス、ソレニハモツトモツト凡ユル部面ニ科學ヲ基礎トシタ改善ガ行ハレネバナリマセン、殊ニ凡ユル資材ト經費ノ不足シテヰル今日、技術者ガ相倚リ、相助ケ、出來ル丈少イ經費ト資材ヲモツテ最大ノ効果ヲ擧ゲル樣ニ努力シ、工夫ヲコラサネバナラヌト存ズルノデアリマス、此度縣デ事務振興運動ガ實施サレマスガ、之ニ卽應シテ、我々技術者モ夫々獨自ノ立場ニ於テ、コノ週間ヲ意義アラシメネバナラヌト存ジ、今日ノ運ビトナツタ次第デアリマス、本運動ノ實施案ニツキマシテハ最初皆樣ニオ願ヒシ、オ諮リスベキデアリマシタガ、多忙ナ皆樣ニ而モ多數ノ方々ニイチイチオ集リ願フコトハ困難デアリマスシ、技術課長ヲ中心ニ各課ノ主任技師ヲ準備委員トシ、度々協議ヲ重ネ、オ手元ヘ配布致シマシタ樣ニ大體案ガ纏リマシタノデ、今後之ノ案ニヨリ夫々本運動ノ具體的ナ實踐項目ヲ定メ趣旨ノ達成ニ進ンデ參リタイト思ヒマス、尙本運動ヲシテ單ナル宣傳的一時的運動ニ終ラシメナイ樣、之ヲ恒久的ナモノニスル爲メニ技術奉公會ヲ作ツタノデアリマス、今後之ノ團體ガ中心ニナリ、之ヲ母體トシテ時局下意義アル運動ヲ展開シタイト存ジマス。

之レカラ議事ニハイリマスガ、將來本運動モ縣廳內ニ止メズ、縣下全體ノ技術者ニモ呼ビカケタイト考ヘテキマス、ソシテ之ノ會ヲシテ時局下ニフサハシキモノタラシムベク、我々技術者ノ氣迫ト矜持ヲ高ウシ、已ヲ空ウシテ一意專心技術報國ノ誠ヲツクシ、コノ難局ヲ乘リ切リタイト念願スル次第デアリマス、極メテ簡單デアリマスガ、今日ニ至ルマデノ經過ノ大體ヲ述ベテ開會ノ御挨拶トシマス。

議事、進行係（村山衞生課長）

之カラ議事ヲ進メテ行キマスタメニ座長ヲ梅原山林課長ニオ願ヒシタイト思ヒマスガ、皆様御異議ガゴザイマセンデセウカ。（滿場拍手）

座長（梅原山林課長）唯今御指名ニヨリマシテ暫ク座長ノ席ヲ汚サセテ戴キマス。

會議ノ進行ヲ速ニスルタメ豫メ各部各課ノ課長、技師ガ集リ、オ手許ニ配リマシタ會則案ヲ作ツテオキマシタ、此ノ案ニ御賛成下サイマスレバ拍手願ヒマス。（滿場拍手）

役員ノ選擧モ省略シ、私ヨリ指名致シタイ。（拍手）

會　長　三宅土木部長

副會長　梅原山林課長

理　事　（別紙ノ通リ）讀上

ナホ委員ハ各地ニ亘リ多數オ願ヒシマスノデ後刻文書ヲ以テ御通知申上ゲルコトニシマス。（拍手）

名譽會長ハ本會則第四條ニヨリ知事ニオ願ヒシタイト思ヒマス。（拍手）

又土木部長以外ノ各部長ヲ顧問ニ推載シタイト思ヒマス。（拍手）

會則ト役員ガキマリマシタノデ私ハ之デ失禮シマス。

會長挨拶（三宅土木部長）

私ハ三宅土木部長デス、唯今岡山縣技術奉公會ガ出來マシテ、皆様ノ御推薦ニヨリ、會長ニシテ戴キマシタコトヲ洵ニ光榮ニ思ヒマス、折角皆様ノ御支援ト御援助ニヨリ、今後益々本會ノ發展ニ努力致シタイト考ヘテキマス。

御承知ノ通リ現下ノ時局ニ於テ技術者ノ使命ハ恂ニ重大デアリマシテ、皆様ト共ニ大ニ努力シ工夫シテ、職責ヲ全フ致シタイト思ヒマス、今後我々ハ打ツテ一丸トナリ、成績ノ上ル様精進致シタイ、會長ニ推薦戴キマシテ御挨拶ヲ一言申上ゲル次第デアリマス。

會長　皆様ニオ諮リシマスガ、之カラ宣言ヲ致シタイト思ヒマス。（拍手）

一、宣言朗讀（村山衞生課長）別記（拍手）

一、名譽會長挨拶（横溝知事）別記

祝　辭　（高橋縣會議長）

一言ノ喜ビヲ申述ベマス、本日紀元ノ佳節ヲ記念サレマシテ茲ニ盛大ナル岡山縣技術奉公會ノ創立發會式ヲ擧ゲラレマスコトハ詢ニオ喜ビニ堪ヘナイ、先程長官ノオ言葉ニモ有リマシタ樣ニ今日ノ行政デ最モ缺ケテヰルノハ綜合性ノナイ事デアリ、左右聯絡ノナイ點デアリマス、此度本縣技術者ガ左右ノ聯絡、技術ノ振興ヲハカル爲メ、本會ヲ結成サレマシタ事ハ詢ニ我ガ意ヲ得タモノト云フベク、今後徹底的ニソノ効果ヲ擧ゲラレル事ヲ期待シテ止ミマセン。八百有餘ノ技術ヲ以テ職ヲ奉ズル諸君ガ技術奉公會ト云フ一ツノ會ニヨリ一層强ク結バレ相互ノ技術ノ聯絡ヲ密クシテ行カレル事ハ今日ノ時局柄詢ニ時宜ヲ得タモノト存ゼラレ、今後ノ本會ノ活動ニ大イニ期待スル次第デアリマス。從來縣デオヤリニナツテヰル處ヲ見マスト、横ノ連絡ノ無イ點ヲ屢々發見シテヰマシタ、例ヘバ耕地課ト土木課ニ於テハ時ニ土地測量ノ基準ヲ異ニシタリ、技術的意見ガ異ナルトイツタ樣ニ、具體的ナ事ニ於テモ不統一ガ間々アツタガ、今後ハ之ヲ改善サレ、カヽル横ノ聯絡ヲ密ニサレル以上、ソレハ恐ラク解消サレル事ト信ジマス、何卒技術ノ總力ヲ擧ゲテ本縣ノ凡テノ產業ノ發展ニ御盡力願ヒタイト存ジマス、產業ノ發展ニハ絕體ニ技術ガソノ基礎ニ立タネバナリマセン、今ヤ時期ハ最モソレヲ要求シテヰル時デアリマス、カヽル際本會ノ生レタ事ハ此上モナイ喜デアリマス、本會今後ノ御發展ヲ祈リオ喜ビノ言葉ニ代ヘル次第デアリマス。

祝辭

紀元二千六百壹年、新世記第一ノ紀元節、建國祭ノ佳辰ヲトシ、岡山縣技術奉公會發會式ヲ擧行セラレ、末席ニ列リテ祝辭ヲ呈スル機會ヲ得タルコトハ光榮トスル處ナリ。

惟フニ重大ナル世局ニ對スル皇國民ノ感度ハ等シクシテ職域奉公ノ熱意ニ厚薄アルコトナシト雖モ、戰時體制整備ニ不可缺ノ一要件ハ技術ナリ、今日科學、技術尊重セラレ其ノ必要性ノ認識深化シタルコトハ決シテ偶然ニ非ズ。

盟邦獨逸ノ實力ハ科學ヲ胚子トシ、技術ヲ基調トス、獨逸ハ天然資源豐富ナラズトイハレルモ、其ノ優秀ナル科學

卓越セル技術ニヨリテ一ヲ百千ニ活用シ、無ヨリ有ヲ創出シ、科學、技術ニ對スル確信ガ國民ニ與ヘタル精神力ハ詢ニ偉大ニシテ、世上運命ノ爲メニ醜弄セラルヽコトナク、能ク獨立セント欲セバ有用ナル技術ヲ學ベトイヘルコトアリ、獨逸ニハ國民トイハズ、國家トイハズ意識磅礴セルナリ、翻ツテ我ガ國ハ資源乏シキノミナラズ、敵性國家ノ禁輸、輸出制限ノ爲メ軍需資材、民需資材ノ輸入ハ影響ヲ蒙リツヽアリ、資源ノ開發、保有資材ノ高次利用ヲ考ヘ、新資材ノ研究、發明ハ技術ノ向上ニ竢ツモノ多シ。技術公開ノ如キ國家全體ノ利益上技術ノ進歩ニ資セルモノニシテ、技術ノ發達ハ相互錬磨ニヨリ業蹟ヲ收ムベク、又技術者ノ職域奉公ハ本會創立ノ主旨タル全員ノ聯繫、統一調整ニヨリテヨリ發現スベシト信ズ。

岡山縣技術職員各位ガ時代ノ精神ト艱難トヲ體認セラレ一致團結以テ臣道實踐、公益優先ニ大政翼贊ノ誠意ヲ効サントセラルヽニ方リ、蕪辭ヲ陳ベテ、成果ノ顯揚ヲ望ム。

昭和十六年二月十一日

合同新聞社長　橋本富三郎

閉會ノ辭（村山衞生課長）

之デ本會ノ創立發會式ヲ終リタイト思ヒマス、先程名譽會長ガ我々技術者ノ守ルベキ心構ヘニツキ御懇切ニオ示シ下サイマシタ事ハ我々一同詢ニ感銘ニ堪ヘナイ次第デアリマス、今後コノ御訓示ヲ體シ、今日吾人ノ宣言ヲ反省シ、全國ニ魁ケテ發會シタ本會ガ龍頭蛇尾ニナラヌ樣、益々進展スル樣深タ念願スル次第デアリマス、一瀉千里ニ議事ガ進行シマシタガ、之ハ準備委員ガ專横ニ事ヲ運ンダノデハナク、全ク吾人技術者ノ一致團結ノ現レトモ存ゼラレ、不備ノ點ハ今後諸君全會員ノ御意見ヲ體シテ委員會、理事會ニ於テ充分協議ヲ進メテ訂正モ致シタイト存ジマス、然シ吾人ノ任務ハ各々一致協力、本會ノ發展ニ寄與シテ參リタイト存ジマス。尙横ノ連絡ヲ密ニシ、綜合技術ノ發揮ノ爲ニハ關係會員ノ部會モ開キタイト存ジテヰマス。

之ヲ以テ一先ヅ會ヲ終了致シタイト思ヒマス。

之カラ直チニ特別講演ニ移リマス。本日ハ興亞院ノ技術

部長宮本武之輔氏ニモオ出デヲ願フ筈デアツタガ御都合ガ付カナカツタコトハ遺憾ニ存ジマス。古屋博士ハ數年前迄金澤醫大ノ衞生學教授ヲシテ居ラレマシテ、ソノ名聲ハ赫々タルモノガアツタガ、厚生省ガ出來ルト共ニ厚生省ニ入ラレ各局部ノ推進力トナツテ居ラレマス、先月二十二日ノ閣議デ決定ヲ見タ人口政策要綱モソノ基礎案ノ作成ニ努力サレマシタ、今日人口問題デハ一大權威者デアリ、大キナ功績ヲ樹テ、居ラレマス、今日ハ此ノ人口問題ヲ周リ技術ノ綜合性ノ發揮ニツイテオ話ヲ願フコトニナツテキマス、之ハ獨リ醫學者トシテノミナラズ一般技術者ニトツテモ大イニ參考ニナル事ト思ヒマス。

御靜聽ヲオ願ヒシマス。

特別講演

綜合技術ノ發揮ト人口政策

厚生技師醫學博士　古屋芳雄

私ハ本日技術奉公會ノ創立發會式ニオ招キヲ受ケマシテ先程カラ式ノ進行ノ狀況ヲ拜見シマシテ詢ニ深イ感銘ヲ受ケマシタ、ト申シマスノハカネガネ何處デモ遺リ度イト思ヒナガラ成功シナカツタ事ガ本縣デ先鞭サレ恐ラク或程度迄成功スルデアラウトイフ事ヲヒシヒシト感ジタカラデアリマス。

長官ノオ言葉ノ中ニ技術者ノ綜合性ヲ强化セネバナラヌ事ヲオ示シニナリマシタガソレハ非常ニ大切ナ事デアリ、又大變困難ナ事デアリマス、然シ不可能ナ事デハアリマセン、ソレハ寧ロ本省デ先ヅヤラネバナラヌ事ダト思ヒマス、私ハ厚生省ヘ這入ル迄ハアヽモシタイコウモシタイト色々考ヘテ居タガ、這入ツテ見テ意外ノ事ノミ多ク中々思ヒ通リニナラナイ、何トカセネバナラント常ニ同僚ノ間デ話シナガライザト言フ段ニナルト迚モ出來ナイ、何デモイヽ一ツデモイヽ具體的ナ事ヲ捕ヘテ、各方面ノ技術者ガ協力シ突込ンデヤツテ行クト大シタ事ガ出來ルト思ツテ居マス、今日非常時トイフ言葉ハ飽々シテ耳ニタコガ出來ル位聞カサレテキルガソノ時ニナツテ本當ノ非常時ガ來テキル、ソノ最モ大切ナ時ニ於テ國民ガボンヤリシテキルノデ

ハナイデアラウカ、之ノ非常時下官ニ職ヲ奉ズル者ニ取分ケ我ヲ捨テヽカヽラネバナラヌ事ヲ切實ニ感ズル次第デアリマス、夫レニ就イテ數年前海軍ノ人事局長ト話シタ事ガアルガソノ時海軍ハドウシテモヤラネバナラヌ事ガアル、ソレハ横ノ聯絡ダト言ハレタガ今日特ニソノ感ヲ深クスル次第デアル。

今日オ話スル人口政策ニツイテハ厚生省ハ企劃院ト連絡ヲトツテヤツテキル、ソレガ卽チ綜合技術ノアラハレデアルト思ツテキル、ソレノ實施ニカヽル前ニ此ノ發會式ニ臨ミ詢ニ深イ感銘ヲ受ケタ次第デアリマス。

長官ハ技術ノ綜合トイフ事ヲ言ハレマシタガ、私ノ畑デモソノ必要性ヲ痛感シマス、例ヘバ今日結核ト乳幼兒ノ問題、ソレカラドウシテ日本人ノ體位ハ年々低下スルカトイフ事ソノ相互間ノ關係等深ク考ヘテ行カネバナリマセンガ今日ノ實情ハ結核ハ主ニ內科ガヤリ、乳幼兒ノ事ハ小兒科ガヤツテキル、各科ガ別々ニ研究シソノ間ノ連絡ガ充分トレテキナイ、コンナ事ガ大變澤山アツテハ結核ヲ減ラス事ハ迚モ出來ナイ、又乳幼兒ノ死亡率ヲ下ゲル事モ困難デアル、婦人科モソノ他ノ科モ、一般醫學者モ學生モ相携ヘテコノ大問題ヲ研究シナケレバナラン、凡ユル方面デ技術ノ綜合ガ今日程求メラレテキル時ハナイ、今日コソ各方面ノ連絡ノ强化ガ最モ必要ナ時代デハナイデセウカ、技術ト技術以外ノ部門トノ連絡モ亦必要デアル。

今日ノ醫學ヲ見ルノニ恰モ窓ノナイ大建築ノ如キモノダト言ヘルト思フ、日本ノ醫學ハ或ル意味デ歐米ノ夫レニ劣ラヌ進步ヲシテキルガ此ノ折角立派ナ大建築ニ窓ガナイ、ソレヲ通シテ社會ヲ見ルベキ窓ガナイ、醫學ハ日本デ何ヲ爲スベキカト言フ事ヲ見ル窓ガナイ、醫學的ニ社會ヲ見ル樣ナ教育ガ行ハレテキナイ、醫學ハ進ンダト言ハレテキルガ病人ハ社會ニ溢レテキル、醫トハ何ゾトイフ事ガ考ヘ直サレネバナラン、又今日ノ醫育ハ反省サレネバナラヌト思フ、醫者モ民衆ト共ニ步ク事ガ必要デモウ一邊再出發セネバナラン醫術ト他トノ連繫モ必要デ今日ノ如ク分科シタ一人ヨガリノ學問ハ駄目ダト思フ、之ハ獨リ醫術ノミナラズ

他ノ技術デモソウデハナイカト思フ。

長官ノオ話ヲ聞キナガラ特ニ感ジタ點デアルカラ一言申上ゲタ次第デアリマス。

人口政策ニツキ何カ話セトイフ事デアルカラ簡單ニオ話シシテ見タイ、之ガ各方面ニ如何ニ深イ關聯ヲ持ツカト言フ例ニモナルカト思ヒマス。

東亞ノ盟主タルベキ日本ノ人口對策ハ如何ニスベキデアルカ、之ニツイテ大臣ガ私ヲ呼ンデ何ガ人口政策ノ骨子カト聞カレタ、私ハ次ノ樣ニオ答ヲ申上ゲタ。

今日東亞共榮圈ダトカ新東亞ノ盟主トイフ言葉ガ言ハレテキルガ私共カラ言ハセルト若シ人口政策ノ確立ガナケレバ一ツノ兒戯ニ類スル言葉デハナイカ、ト申シマスノハ此ノ儘デ放ツテオカレルト日本ハ極メテ近イ將來恐ラク三十年カ五十年先デ例ヘ今日國ヲ擧ゲテ努力シ新東亞ノ盟主トナツタトシテモ其ノ時ニ國防力ト生產ノ方面ニ人ガ足リナクナルデアラウ夫レヨリモツト大切ナ事ハ人口ノ年齡構成ガ交ツテクル事デアリマス、皆數ノ事バカリ少クナルト言ヒマスガ數ヨリモ年齡構成ガ大切デ數ガ多クテモ年寄バカリ殖エテ青年ガ減ツテハ話ニナラン、處ガ一方ソビエートロシヤノ人口增殖ノ狀態ヲ見ルト人口千ニ付四〇以上ノ出生數ヲ持ツテキル從ツテ三〇年——五〇年先キデモ尙ホ人口構成ニ於テ若々シイ國トナル、カクテハ人ノ量ニ於テモロシヤニ比ベ我國ガ迚モオ話ニナラヌ事ニナル、一國ガ年寄ノミ多クナツテ眞ニ東亞ノオ守ガ出來ルデアラウカ、此ノ事ヲ閣議デ言ツテ下サイト大臣ニ申上ゲタノデアリマス。

人口政策デハ第一ニ增殖力ニ於テ他國ニ凌駕スルト言フ事ニナツテキル、他國トハソビエートロシヤヲ意味シテキル、ロシヤハ此度ノ戰ニモ加ハラナイデ專ラ實力ヲ養成シテキルカラ其ノ將來ハ洵ニ恐ルベキ實情ニアルノデアリマス。

我國ガ此ノ儘放置サレマスナラバ二〇年——三〇年後ニナツテロシヤトノ民族力ノ「バランス」ガ壞レテシマウ恐レガアリマス、ロシヤノ人口再生產率ハ一・七デアリマ

ス、夫レハ簡單ニ言フト今日生殖年齡ニアル女ノ數ト其ノ女ノ產ンダ女子ガ次ノ生殖年齡ニアル時ノ數ノ比率ヲ言フノデアリマシテ其ノ比ガ一ナラ減リモ殖エモセヌ、生ンダ女ノ子ノ數ガ多ケレバ比ハ大トナル、ロシヤハソノ比率ガ一・七デ日本ノヲ一・七以上ニシヤウトイフノデアリマス。

第二高度國防國家建設ニ必要ナ兵力ト生產力ヲ確保スルト言フ事ニナツテキル、共榮圈ニ於テ盟主トナル爲ニハソレニ必要ナ兵力ト生產力ヲ持ツテキル事ガドウシテモ必要デアル。

昭和十五年ノ工業從業者ノ推定ハ七五〇萬デアルガ最近ノ工業發展ノ過程ニ於キマシテハ夫レヲ年々五〇萬宛殖ヤシテ行カネバ共榮圈ノ確保ハ出來ナイ、此ノ計算ニ依ルト昭和二十五年ニハ工業從業員ハ一、二五〇萬人ヲ要スル事ニナル、更ニ交通運輸ニ從事シテキル人員ガ昭和十五年ニ一二〇萬デ年々一四萬宛殖ヤサネバナラン、夫レガ昭和二十五年ニ二六〇萬ヲ要スルノデアリマス、其ノ上ニ工業生產ガ擴大サレル爲ニ原料ノ年產額ガ增大サレル必要ガアリマス其ノ爲ニ原料供給ニ從事スル人ヲ殖ヤサネバナリマセン。

此處ニ亦考フベキコトハ農家人口デアリマス、之ハ今後何年經ツテモ增ス事ガ出來ナイノデアリマス、ソレト申シマスノハ耕地面積ニ限度ガアルカラデアリマス。

然ルニ有業人口ノ四割ハ之ヲ農ニ確保セネバナラン事情ガアルノデアリマス。

本縣ノ如キ農業技術ノ進步シタ處デハ現在ノ農業從事者ヲ現在ノ半分ニ減ラス事モ不可能デハナイデアリマセウ、然シ日本全體デ考ヘマスト農村人口ノ一定數ハ何ウシテモ確保スル必要ガアルノデアリマス。

其ノ理由トシテ農村ヘハ單ニ食糧ノ供給ヲナストイフ事ノ外ニ國防上大キナ役割ヲ持ツテキルカラデアリマス、若シ農村人ガ食糧ノ供給丈ニ必要ナノデアレバソレハモツト少クテスム、人ニヨツテハ農村人口ヲ今日ノ二分ノ一乃至三分ノ一ニ減ジテモヨイト言ハレルガソンナ事ヲスルト大

變ナ障リガクル、唯食糧ノミノ事カラ農業ヲ考ヘル事ハトンデモナイ事デアル農村人ニツキ特ニ考フベキ事ハ日本ノ人口ノ供給源ヲナシテオル點デアリマシテ、此ノ點ガ特ニ重要ナノデアリマス。

今試ミニ都市ノ人口增加狀況ヲ仔細ニ觀察シマスト色々考ヘサセラレルノデアリマス、六大都市ノ人口ノ自然增加ハ全國平均ニ比ベテ劣ツテキル、然シマダマダ我慢ガナラヌ程度デハナイト言ハレテキル、我々トシテハ其ンナ事ハナイト思フ、都市人口ノ自然增加ハ人口千ニツキ一一ト言ヘバ相當高イ樣ニ見エルガ夫レハ田舍カラ都市ニ流入スル容力ノ高イソシテ死亡率ノ低イ人口ノ數ニヨツテカモフラージサレタ結果デアリマス、若シ都市ガ田舍ヨリ流入スル青年男女ノ堰止メラレタトシタラ其處ニ初メテ都市本來ノ人口構成ガ安定シテクル夫レヲ計算スルト一一ト見エタ人口ノ增加率ハ僅ニ三・六人シカナイ、船橋市ノ如キハ却ツテ(一)ニナツテヲリ死者ノ方ガ生レルモノヨリ多イノデアル、岡山市ハ出生率ガ低ク死亡率ガ高イ、コンナ氣候ノ良イ經濟ニ惠マレタ處ガ其ンナ結果ニナルトハ一見不思議ニ思ヘルガ之ハ農村ヨリノ流入ノオ蔭ヲ大シテ受ケテキナイ事ヲ物語ルモノデ之コソ都市本來ノ姿デハナイカト最近考ヘテキル次第デアリマス。

都市ハ人口學的ニ見ルト殆ンド役ニ立ツテキナイ。之ヲ補ナツテクレルノハ農村ノ高イ出生率デアル、少クトモ人口ノ供給源トナツテキル農村ノ人口ヲ減ラスコトハ大變ナコトデアル、殊ニ民族學的ニ見タ農村ノ價値ハ數字デ表ハセナイ處ニアル。

堅實ナ精神ノ資源ト人口供給地トシテノ農村ノ價値ハ隨分ト高イ、强靱ナル精細ハ祖先ノ家ト土トニ堅ク結バレテキル、人間ノ生キル生キ方ノ健全性、安定性ニ基クモノト考ヘテキル、其ノ證據ニハ夫レ等農村人モ土カラ離ストト直チニ子供ヲ生マナクナル、都市ニ入ルト直グニ生マナクナル事ヲ以テモ分ルノデアル、ソウカト云ツテ五反百姓ヲ無暗ニ殖セトイフノデハナイ、現在內地ノ人口ハ七、六〇〇萬デアルガソノ內農村人口ヲ最低三、五〇〇萬保有スル必

要ガアル、外地ヲ加ヘテ共榮圈ノ確保ノ爲ニハ五〇〇萬ノ人ヲ滿洲支那ニ出サセネバナラヌ、又朝鮮、南洋ヲ合セテ六〇〇——八〇〇萬出サネバナラン、卽チ日滿支ヲ一體トスル人口政策ヲ樹テネバナラヌ。ソウスルト昭和二十五年迄ニ八、四〇〇萬、昭和三十五年迄ニ一〇、四〇〇萬ヲ目標ニ殖ヤス事ニナル譯デアル。

今日ノ現狀ヲ其ノ儘ニ放ツテ置クト何ウナルカト言フニ、御承知ノ通リ日本ノ出生率ハ歐米ニ比シテ良シイ、夫レガ最近著シク減リ今日デハ事變前ニ比シ出生數ガ〇〇〇モ減ツテキル、夫レハ此ノ事變ニ關係シテ生ルベクシテ生レナイ人ガ〇〇〇モアル事ニモヨルガ、ヨリ調ベテ見ルト大正九年人口千ニ付三六・二ノ出生率ヲ頂點トシテ次第ニ減ツテ來テキル、事變前ニ既ニ〇〇ヲ割ツテキル、然シ一方死亡率ガ低下スル事ニヨツテ人口自然增加ニ於テハ補ヒガツケラレテキタ、夫レガ最近急ニ下ツテ來タ、大正九年三六・二トイフノガ一昨年ハ〇〇・〇迄下ツテ約一〇人モ減ジテキル。

人口問題研究所ノ計算ニヨルト昭和十二年ノ出生率、死亡率ニナルトカラクモ、昭和三十五年ニハ九、六〇〇萬ニシカ殖エナイ、既ニ八〇〇萬ノ不足ヲ來タス譯デアル、更ニ五〇——八〇年先ニナルト自然增加ハ減リ、其ノ後ハ今日フランス、イギリスノ如ク次第ニ減ツテクル、其ノ結果トシテ殊ニ女ノ老人ガ殖エルコトニナルノデアル、其ノ上ニ今度ノ事變ニヨル死亡率ノ增加、出生率ノ低下ヲ考ヘルト人口自然增加ノ低下ハモツト早ククルモノト思ハネバナラヌ。

スルト今日出生率人口ニ付四〇以上ヲモチ、人口ノ再生產率一・七ニアルソビエートロシヤト日本トノ民族力ノ關係ガ妙ナ事ニナリ恰モ今日ノ獨逸トフランストノ關係ガ其儘成立ツノデ、戰ハズシテ既ニ敗ケテキルコトニナルノデアル、ソレ故何ウシテモ今日人口政策ヲ確立シ、之ヲ實踐セネバナラヌ譯デアル。

由來人類ノ盛衰興亡ノ跡ヲ見ルト明ニ其ノ民族人口ノ增減ト正比例シテキル、夫レハ量ノ外ニ質ニモ關係シテキ

ル、例ヘバフランスニ於テハ一九三五年ニ既ニ死亡數ガ出生數ヨリ多クナツタ、フランスハ今度ノ戰デマジノ線ヲ簡單ニ破ラレタガ實ハ既ニ數年前ニフランスノ生物學的マジノ線ハ破ラレテキルノデアル、今日ノフランスハ民族的ニ見テ鼎ノ輕重ヲ問ハレタトイツテヨカロウト思フ、其ノフランス人モ嘗テハ非常ニ子供ヲ生ンデ來タ、十八世紀ノ頃スペインノ王位爭奪戰ハ前後四回ニ及ビ十三年モ戰ヒ續ケラレタ、ナポレオンノ時代迄ハ未ダヨク殖エテキタ、彼ノナポレオンガアイローノ戰デ大敗シ、味方ヲ非常ニ失ヒ死體類々タル樣ヲ眺メテパリノ一夜ガ之ヲ解決シテクレルダロウトイツタ通リアノ當時ノフランスノ出生率ハ非常ニヨカツタ、十九世紀ニ入リ自由主義ノ體制ガ確立サレテ以來出生率ハ急ニ低下ノ一途ヲ辿ツテ行ツタ、第一次ノ世界大戰ノ時ハ出生ノ不足ガ相當ヒドク兵力ニ影響シタ、若シフランスニ更ニ五〇萬ノ兵ガアレバドンナニ有力ナ作戰ガ出來ル事カトクレマンソーヲ嘆カシメタト言フノハ有名ナ話デアル。

普佛戰爭ノ當時バフランスモドイツモ共ニ人口ハ三、八〇〇萬デアツタ、然シ同ジ三、八〇〇萬デモフランスノハ下リ坂ノ三、八〇〇萬デアリ獨逸ノハ上リ坂ノ三、八〇〇萬デアツテ、其處ニ民族力ノ若々シサニ於テ大キナ差ガアル、要スル處ハ我國ノ人口政策ノ確立ガ今日何ウシテモ必要ダト言フコトガ分レバヨイ。

國力ヲ强增スル上ニ缺ク事ノ出來ナイ人口資源ノ確保ハ唯醫師ダケノ力デ出來ル譯ノモノデハナク、凡ユル方面ノ連絡ガナケレバナラン、人口政策ガ國土計畫ノ一部ニ加ヘラレテキルノハソウイツタ理由ニヨルモノデアル、其ノ國土計劃ト人口政策ハ全ク密接不可分ノ關係ニアルノデアツテ、大都市ヲ阻劃シテ人口ノ分散ヲ圖ル事ガ亦非常ニ重要ナ事デアル、就中重工業ハ何ウシテモ地方ニ移サネバナラヌ、其ノ時農ト工トヲドンナ狀態デ結ブカガ大切デアル。

今日人口減少ノ原因ガ何處ニアルカ、都市構成ノ何處ニ缺陷ガアルカ、夫レハ單ナル保健衞生丈ノ問題デハナイデアロウ、六大都市デ行ツタ體力檢査ヲ見タノニ出生率ノ最

モ低イ船橋市ガ凡テノ點デ最モ悪イ、又都市ノ婦人ハ一見發育ガ良イ樣ニ見エルガ仔細ニ調ベルト早熟ナ爲メデアル、都市ニ於ケル出生率ノ減少、青年ノ體位ノ低下ハ都市計畫ノ問題其ノ他種々樣々ナフアクトノルノ結果デアル、夫レハ單ニ醫師丈ガ考ヘ努力スベキ問題デハナイノデアル。

國土計畫ハ人口政策ト切ツテモ切レナイ關係ニアル、人間ノ地域的、職能的、配分ガ大キナ問題ニナツテキル、夫レハ單ナル生產力ノ擴充丈ガ目標デハ決シテナイ。

以上申上ゲタ樣ニ我國ノ人口政策ハ東亞ノ盟主トシテノ使命ヲ果ス爲ニ不可缺ノ重大事デアルト同時ニ、更ニ重要ナル國土計畫ト密接不離ノ關係ニアル事デアル、其處ニ凡テノ技術者ノ共同力ニ俟タネバナラヌ所以デアル、斯テ初メテ人口政策ハ有終ノ美ヲ收メル事ガ出來ルト確信シマス

以上御參考迄ニ申上ゲテ見マシタガ此ノ話ガ皆樣方技術者ノ今後ノ活動ニ寄與スルナラバ甚ダ幸セデアリマス、之デ私ノ話ハ終リマス。（文責在記者）

◎若葉會句屑

僧房の稚兒にたゝかる木魚かな　玉葉
川狩の子等蘆搖らし土堤歩む　農馬
團扇持つ母もいつしか夢路なる　如水
怪談も一段落や梅雨更くる　靜如
川狩の一と極目立つ吾子のたくましさ　同
梅雨明や庭に二つの傘干して　淺茅
炎天を火を吐くばかり線路哉　同
辿り來て嬉しく憩ひ岩清水　同
梅雨晴や瞬く星の二つ三つ　蕗邨
日盛を涎垂れ行く荷牛かな　同
行水の窓にゆき交ふ蜻蛉かな　同
水打つて一家揃へり夜食膳　翠山
寬いで輕き浴衣や生ビール　同
行水や黃昏そむる雲のさま　同
臺を尙灯りて暗し梅雨の宿　野狐禪